



“Made in Japan” ウイスキーも大人気

世界中で日本製品は好まれています。インドも例外ではありません。インド人は、日本製の商品に執着していると言っても過言ではありません。インドのほとんどの人々は、日本の商品を質の高いものと考えていますが、これは特に日本の電子製品や自動車に当てはまります。「Made in Japan」、「日本の技術」、「日本製」といった表現が、広いインドのあらゆる地域において、ショッピングモールや市場でさまざまな商品にみられます。

興味深いことに、最近の日本製品の人気は工業製品以外にも及ぶようになってきています。インド人の収入が急増し、消費水準が上がってくるにしたがって、ファッション系の製品、たとえばカバン、アクセサリ、香水などの日本の高級品の需要も増加しています。そして、これらの日本製の高級品の中でもインドで人気なのが、実は「日本のウイスキー」なのです。

キー」なのです。

ウイスキーとインドは歴史的なつながりを持っています。この飲み物は1820年にスコットランド人によって最初にインドに持ち込まれました。当時、スコットランドの公務員がイギリスの植民地であるインドの行政サービスを支配していたのです。それ以来、ウイスキーは「生命の水」としてインドで愛されてきました。

今日では、インドはウイスキー消費地および生産地として世界最大級となっています。統計によれば、世界で生産されるウイスキーの半分がインドで消費されています。インドでは、過去10年間でウイスキーの消費量が倍増しました。

海外からの輸入ウイスキーの需要も増加しています。日本製ウイスキーの消費がインドで伸び始めたのは比較的最近ですが、今では





外国製ウイスキーの中で最も人気があります。日本のウイスキーは、伝統的なスコットランドのウイスキーの強力な競争相手となり、インド市場で急速に成長しています。

インドで最もポピュラーな日本のウイスキーブランドは、サントリーの主力ウイスキーである“山崎”です。続いて人気なのはサントリーウイスキーの“白州”と“響”でしょうか。その他にも、余市で製造されたニッカウイスキーや、兵庫県明石の「刻の酒蔵」のホワイトオークも人気です。

多くの専門家は、インドにおける日本製ウイスキーの人気の背景にある最も重要な理由は、「インド人好みのテイスト」にあると考えています。日本のウイスキーは、ダイナミックで柔らかく味わい深いだけでなく、古典的な味わいのスコットランドのものと比較して、風味の全域をカバーする強い豊潤さを持っています。

インドの多くの人々は、日本のウイスキーは世界で最もバランスのとれた蒸留酒の一つだと信じており、私も含むすべてのウイスキー愛好家の良きコレクションアイテムとなっています。加えて、日本のメーカーは、スコットランドのメーカーと比べてマーケティング

に優れており、価格もリーズナブルです。これらのウイスキーは、空港の免税店、ワインショップ、百貨店、レストランなど、インド国内のさまざまな場所で購入可能です。

上の写真はそれぞれ、ムンバイとニューデリーの空港のショップで撮った写真です。

これをお読みの日本の皆さん、インドに来られる機会があれば、インドの空港で日本製ウイスキーもチェックしてみてください。また、インドのレストランで日本製モルトウイスキーをオーダーしてみてください。そこで、あなたが最も好きなブランドの日本のモルトウイスキーが出てきても驚かないでくださいね。

筆者紹介



シティージ・マルホトラ (Kshitij Malhotra)

Global IP Indiaの創設メンバーで事務所代表です。インドの弁護士&弁理士双方の資格を持ち、特許を含む知的財産関連の法的経験が10年以上あります。専門は化学工学で、デリー弁護士

会所属。首都ニューデリーに住み、英語、ヒンディー語、パンジャブ語が堪能で、日本語に関する基礎知識も有します。趣味は、ドキュメンタリーを観たり、読書したり、詩を書いたりすること。学生時代にはクリケット部員でしたが、今はたしなむ程度で、もっぱら観戦。